

## 強風で飛ばない電子絵灯籠の開発

名取市観光物産協会・復興部会は、東日本大震災後「3.11 追悼イベント」で手作りの絵灯籠を屋外に飾ってきました。しかし、2013年3月の追悼イベントでは、灯籠が紙製の軽量なものであるため、強風による転倒・飛散やろうそくの火が消えるといった問題が発生し混乱をきたしました。



2014年3月の追悼イベントでは、このような問題を解決し成功させたいという市民の思いを受け、ろうそく（灯り）の電子化を進めています。

電子絵灯籠の開発にあたり、試作した灯籠の強度や対策が十分であるかを評価するため、低乱風洞実験施設において風洞試験を実施し、想定される風速に耐えうる灯籠とすること、及び、転倒・飛散防止に必要な錘重量について検討を重ねました。

この風洞試験は、流体科学研究所の復興支援事業の一環として実施されました。



風洞実験風景